



G Data

White Paper 2011

—セキュリティソフトにおける無料版と有料
版の違いについて—

G Dataセキュリティ エヴァンジェリスト

エディ・ウィレムス

(瀧本往人 訳)



目次

1.概要	3
2.無料版はお金がかかる？	3
2.1 無料版にできることとできないこと	4
2.2 無料でソフトを提供できる仕組み	5
2.3 無料版の守備範囲	7
2.4 有料版の強み	8
3.結論	8

1.概要

「無料」もしくは「フリー版」のウイルス対策ソフトは、相変わらず人気があります。

パソコン誌など、一般商業誌でさえも大きく取り扱う時代になり、幅広く知られるようになりました。

たとえば、OPSWAT社（統合エンドポイント セキュリティ アプライアンス向け開発ツールの大手プロバイダ）の調査によれば、無料版は、今や世界中で半数近くの市場シェアを持っています*。

*<http://www.oesisok.com/news-resources/reports/worldwide-antivirus-market-share-report%202010>

これだけフリー版が市場に出回り、多くのユーザーが使用しているなかで、今さらなぜ、有料版を買わねばならないのか——そういうった疑問がわいてくるのも当然です。

本ホワイトペーパーでは、無料版のウイルス対策ソフトが「何」を提供しているのか、を説明し、かつ、「何」を提供していないのか、をも明らかにします。

これまで明らかにされてこなかった無料ソフトの「裏の思惑」をお伝えし、みなさまに、セキュリティソリューションに対して、適切な選択ができる手助けになれば幸いです。

2.無料版はお金がかかる？

こんな格言があります——ネヴァー・ルック・ア・ギフト・ホース・イン・ザ・マウス、かつて、馬を買う時に口の中を見て年齢を判断したことから、「もらったプレゼントにけちをつけてはいけない」というような意味です。

ここで言いたいのは、無料ソフトを使うと、ある程度の欠落や短所は覚悟すべき、ということです。

大部分のコンピュータユーザーは、無料のウイルス対策ソフトでできることには制限があり、有料版での補完が必要であるということに気づいていますが、なるべく出費を抑えたいという気持ちが優先されています。

それは多少やむを得ないとしても、しかしながらここで重要なのは、いくつかのソフトを組み合わせる場合、ある程度の知識が必要となってくるということです。

しかも、できることならその知識は、ITセキュリティ専門家と同等程度の知識があると望ましいのです。

つまり、ただ無料のウイルス対策ソフトを使っている、というのは、リスク意識の低い人間であるとみなされることとなります。

2.1 無料版にできることとできないこと

市場に出回っている無料ウイルス対策ソフトは、しばしば、パソコン誌の比較テスト結果やインターネットの比較サイトなどにおいて、高いパフォーマンスを示しています。

特に既知ウイルスの検出テストでは、上位にランクインしている場合もあります。

しかし、セキュリティソフトウェアは、今や、既知のウイルスだけを防御できるものであっては、あまり役に立ちません。

マルウェアの侵入経路をチェックし、そして、ブロックしなければなりません。

したがって、ウェブサイトやメールの監視はもちろん、チャットプログラムやダウンローダーなどで使われるポートも気をつけねばなりません。

それらの出入り口を守るためには、さまざまなプロテクション技術が用いられており、アンチスパムやウェブフィルター、ファイアウォール、コンテンツをベースとした検知、そしてクラウド型セキュリティなどがあります。

そして、概して、無料ウイルス対策ソフトは、これらのプロテクションを持っていないのです。

特徴	無料 AV	有料 AV
ウェブ保護(HTTP フィルター)	×	○
フィッシング保護	×	○
クラウドセキュリティ	×	○
ファイアウォール(ハッカー攻撃を防御)	×	○
迷惑メール対策	×	○

表2.1 セキュリティ守備範囲における無料と有料の違い

今やビジネスも生活の機軸もインターネットの比重が次第に高くなっています。

それゆえスパムやフィッシングの攻撃は、あからさまに「ウェブ2.0」関連のものやソーシャルネットワークに向かっていきます。

また、自分の足でお店に行かずに、コンピュータ上の販売サイトで商品を検索し、買い物をするような方向に向かっていきます。

これまで「振り込め詐欺」や路上での恐喝などを行っていた犯罪者たちも、次第に、オンラインで金銭をだまし取ったり、盗んだりすることに移行しているのです。

そして、まさしくこういった攻撃に対して、無料ウイルス対策ソフトは、防御が貧弱です。

それは、メールの送受信も、ウェブに表示されるデータや入力したデータの跡を追うこともないのです。

一例を挙げましょう。

下記の例では、犯罪者たちは、フィッシング攻撃を仕掛けて、フェイスブックのアカウントを盗み出そうとしています。



スクリーンショット1 フェイスブックでのフィッシング攻撃

この例においてユーザーに要求されているのは、アカウントが使えなくならないように、下部にあるリンク先をクリックすることです。

リンク先には、もちろん、ユーザー名とパスワードを入力するエントリーフォームがあります。

もしもここで入力してしまうと、アカウントが盗まれ、スパムメールをまきちらすのに一役かかってしまうこととなります。

こういった攻撃に対して守ってくれるのは、有料ソフトだけです。

2.2無料でソフトを提供できる仕組み

当然のことながら、ソフトウェアを開発するには、お金がかかります。

プログラムを書き、動作テストを行います。また、理想的には、恒常的に利用者と密接にやりとりを行い、改良を行ったり、新たな機能を加えたり、さまざまな作業が必要になります。

ウイルス対策ソフトの場合、さらに大変なのは、新種マルウェアの定義ファイルを間断なく用意しなけれ

ばなりません。

しかも、不具合や誤検知しないように、細心の注意を払わねばなりません。

さらに、マルウェアの数は、この5年の間に、50倍以上に増加しており、この膨大な量の更新を行うコストは、とても大きくなっています。

これだけ大量にお金がかかるのに、ウイルス対策ソフトを無料で提供する会社があるということは、彼らは慈善事業を行っているのでしょうか。

もちろん、そんなことはありません。

無料ソフトを提供しているところは、むしろ、下手をすると有料ソフトの会社よりも高い利益をあげていることもあるくらいです。

彼らのビジネスモデルは、まず、機能が制限されている無料版を幅広く無料提供し、アップグレードのタイミングで、有料版へと徐々に乗り換えてもらう、というものです。

逆に言えば、無料版とは、体験版と同じようなもので、セキュリティへの知識が豊富な人であれば、他のソフトとの組み合わせで総合的にパソコンを守ることができるわけですが、何らかの機能面での省略を行った結果です。

広告宣伝の手法の一つとして、それほど高くないコストを使って、ブランドの知名度と利用者数を高めることができます。

したがって、無料のウイルス対策ソフトを提供するということは、マーケティング上の巧妙な手口、と言えるでしょう。

それだけでは完全とはいえない「試供品」の提供をきっかけに、最終的に購入に至らせることが目的なのです。

特徴	無料 AV	有料 AV
FAQ	○	○
フォーラム提供	○	○
電話対応によるサポート	×	○
メールによるサポート	×	○
ファックスによるサポート	×	○

表2.2 無料と有料によるサービス提供内容の違い

品質面での儉約

無料ソフトは、マーケティング上で、節約しているだけでなく、ユーザーサポートや商品の保証についても、経費削減をしたものです。

実際にこれまでも、十分にテストされないまま市場に出回ってしまった事例が無数にあります。

ウイルス対策ソフトの場合、このような欠陥は、そのままウイルス感染やマルウェアの活動につながります。

無料ソフトの開発者は、しかしながら、こういった事態にも、あまり気にする様子がありません。

その結果、無料ソフトを使うユーザーは、数多くの不具合やアクシデントとつきあってゆかねばならないのです。

サポートはあるのか？

ある程度、フリーウェア利用の場合は、日本語表示などのローカライズや、マニュアル、説明書、さら是不具合に対処するサポートまでも、提供している場合もあります。

しかし同時に、開発元からなんら返答もないままで終わるようなサポートもあります。

メールか電話による顧客サービスの提供は、全くありません。

その代わりに無料ソフトの開発元は、一般的にネット上で、FAQやフォーラムなどの、ヘルプのデータへのリンク先を提供します。

もし今、あなたがマルウェアや何かのトラブルに陥っているのであれば、開発者は特に関与せず、自力で何とかせねばなりません。

2.3 無料版の守備範囲

もちろん、無料ソフトはいろいろと組み合わせて使用することが可能です。

無料ウイルス対策ソフトとパーソナル・ファイアウォールやスパムフィルターなどのフリーツールと併用するのです（注意：フリーツール同士であっても相性が悪かったり、不具合を起こしたりすることがあり、また、脆弱性をそのままにしているものもありますので、くれぐれも使用にあたっては注意深く行う必要があります）。

併用すべきツールのなかでも、もっと重要なのは、インターネットを通じてやってくる脅威をブロックできる製品です。

参考までに、G Data Softwareでは、この「インターネットを通じてやってくる脅威をブロックできる」フリーツールとして「G Data CloudSecurity」を公開しています。

InternetExploreとFireFoxのプラグインとしてインストールされるもので、他のウイルス対策ソフト（無料版、有料版問わず）との併用が可能です。

もちろんネットを見ているときであってもコンピュータへの負荷は最小限に抑えられています。

定義ファイルを使用せず、クラウドにより今ブラウザで見ているサイトの危険性を感知し、マルウェアや詐欺サイトである場合には、そのページへのアクセスを遮断します。

詳しくは、<http://www.free-cloudsecurity.com/de/>をご覧ください。

2.4 有料版の強み

有料のウイルス対策の長所は何でしょうか。

マルウェアの検知能力や除去能力はさることながら、さまざまな攻撃に対してオールラウンドに、かつ、効果的に、防御してくれる点でしょう（「2.1 無料版にできることとできないこと」を参照）。

また、「インターネットセキュリティ」製品のように、機能が統合されている場合は、それぞれの機能がシームレスに連携しているのも、強みでしょう。

相互に最適化されているので、脆弱性を残したままというような事態に陥りにくくなっています。

たとえば2.1 無料版にできることとできないこと) で例示したフェイスブックへのフィッシング攻撃にしても、攻撃されたサイトはただちにブロックされます。

有料のセキュリティソフトの開発者たちもまた、品質保証の面でも、ユーザーサポートの面でも多大な投資を行っています（「表2.2 無料と有料によるサービス提供内容の違い」を参照）。

ユーザーとの直接的なやりとりや顧客満足度はきわめて重要なものとみなされているのは、セキュリティソリューションというものが、もっと改良されたり、さらに開発が進められる可能性があるからです。

3. 結論

周知のとおり、ウイルス対策ソリューションの使用は、無料であれ有料であれ、何もプロテクトを行わずにインターネットを利用するよりはベターです。

最終的に、どうしても無料版のウイルス対策ソフトを使用することになった場合、さまざまな脅威に対する防御力は、総合的に見ると、どうしても有料版よりも弱く、何らかの補完的な処置、つまり他のセキュリティソフトとの併用が必要となります。

さらに、複数のソフトを同時に利用する際には、今度は相互干渉の問題や脆弱性など、新たな問題をも引き起こしかねません。

それゆえ、私たちが推奨するのは、この種の防御にもっとも望ましい製品をただ一つだけ使用することで

す。

このジャンルにあまり詳しくない、または、複数のソフトを併用し続けることに労力をかけられない場合、あらゆるセキュリティのリスクをカバーし、最新の脅威にたいしてもいつでもシームレスに素早く対応し、製品サポートやアップデートを行っているような有料のソフトを使うべきでしょう。

The duel between free and paid-for security software,
by Eddy Willems,
G Data Security Evangelist
Translated by Yukito Takimoto

日本語版: 2011年7月8日発行

Copyright ©2011 G Data Software AG